

9月の道内景況 情報連絡員レポート



秋イベントが各所で昨年よりも賑わう。人手不足は依然として解消されず。

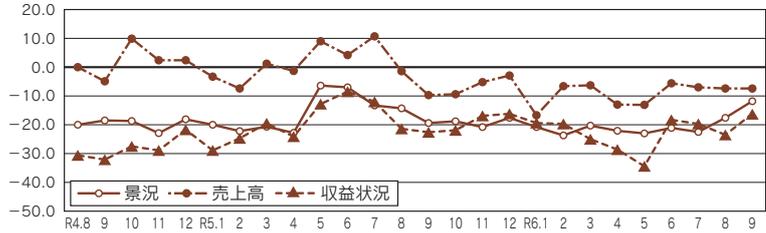
概況

前年同月の比較では、「景況」、「売上高」、「収益状況」の全てが低下している。

8月から9月の推移では、「景況」、「収益状況」は増加したものの、「売上高」は前月と同様であった。

情報連絡員によると、製造業では、全道的に水産物の水揚げが前年より低下しているものの一部の地域では回復が見られるところもあり、今後に期待する声も寄せられた。原材料費の高騰や人件費の引き上げで収益は低調であるが、物の動きに回復の気配を感じるという報告もあった。非製造業では、連休が続いたことにより、各所のイベントで昨年よりも来場者数が多いとの報告が寄せられた。観光客は地域により異なり、主に地方でインパウンドによる収益増の報告があった。依然として人手不足は続いており、特に運送業では需要に応えられず収益につながらないという声もあった。

主要DIの推移



景況天気図(前年同月比)

	全業種			製造業			非製造業		
	8月	9月	前月比	8月	9月	前月比	8月	9月	前月比
業界の景況	☔	☔	5.8	☔	☔	3.2	☔	☔	7.0
	△17.6	△11.8	↗	△18.2	△15.0	↗	△17.4	△10.4	↗
売上高	☁	☁	0.0	☔	☁	17.7	☁	☁	△8.3
	△7.4	△7.4	→	△22.7	△5.0	↗	0.0	△8.3	↘
収益状況	☔	☔	7.3	☔	☁	17.0	☔	☔	2.9
	△23.5	△16.2	↗	△27.0	△10.0	↗	△21.7	△18.8	↗

(凡例) 30以上 ☀ 10~29 ☁ 9~△10 ☁ △11~△29 ☔ △30以下 ☔

	全業種			製造業			非製造業		
	8月	9月	前月比	8月	9月	前月比	8月	9月	前月比
販売価格	☀	☀	1.5	☁	☀	5.9	☀	☀	△1.6
	29.4	30.9	↗	9.1	15.0	↗	39.1	37.5	↘
取引条件	☁	☁	1.4	☁	☁	9.1	☁	☔	△1.7
	△8.8	△7.4	↗	△9.1	0.0	↗	△8.7	△10.4	↘
資金繰り	☁	☁	5.8	☁	☁	14.1	☁	☁	2.1
	△2.9	2.9	↗	△9.1	5.0	↗	0.0	2.1	↗
雇用人員	☁	☔	△2.9	☁	☁	△9.1	☔	☔	0.6
	△7.4	△10.3	↘	9.1	0.0	↘	△15.2	△14.6	↗

天気図の見方 各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」(または「好転」)したという回答(構成比)から「減少」(または「悪化」)という回答(構成比)を差し引いた値(DI)をもとに作成。天気は表示は凡例のとおりです。

製造業

食料品

- 9月から定置網による秋鮭漁が始まっている。9月28日付で当地の水揚げは前年比163%、1,650t。北海道全体では前年比89%、13,523tとなっている。関係者の間では、一度天候が荒れて海の水がかき混ぜられると水温が下がり、鮭が寄ってくるのに…と話がされている。(昨年そのような感じで10月に入って鮭が捕れだした) (網走)
- 味噌出荷量(道内)：単月(令和6年8月) 前年対比 97.2%
累計(令和6年1月~8月) 前年対比 93.7%
- 醤油出荷量(道内)：単月(令和6年8月) 前年対比 91.4%
累計(令和6年1月~8月) 前年対比 94.5%
- 味噌出荷量(全国)：累計(令和6年1月~7月) 前年対比 97.4%
- 醤油出荷量(全国)：累計(令和6年1月~7月) 前年対比 100.4%
- 令和6年8月の道内単月の出荷量は、前年対比、味噌・醤油とも減。
- 令和6年1月~8月の道内累計出荷量は味噌・醤油共に悪く、状況は好転せず。全国平均との比較でも、相変わらず出荷量の落ち込みが大きい。
- 味噌の場合、外国産米の価格高止まり及び令和6年産の国産米の価格上昇が影響し、原料米の確保については特に厳しい状況。(全道)

木材・木製品

- 9月期のトドマツ原木の工場への入荷は、前月期同様落ち着いている。市況は在庫が不足している状況にはなく、弱気合で推移している。また国有林材のトドマツ一般材は、オホーツク、道央圏、道北では複数の応札があり、活発な動きが出てきている一方で、道南圏は不落が続き、出口が見えない。特に道南スギは全く動きがなく、供給過多となっている。
- 原材料については、FITの影響から安定かつ高値安定で推移していたが、この4月以降価格が下降している。9月期のカラマツ原木は供給過多で、合板業界がかなり苦しんでおり、しばらくはこのような業況が続くものと思われる。
- トドマツ製材市況は、先月に引き続き景気後退等の影響により、新規住宅需要が前月に比べ減少しており、回復することは不可能に近い。
- 産業資材も減少傾向で推移している。価格は弱気配~保合の状況にあり、カラマツラミナについても、減少傾向で推移している。また市況はカラマツ、エツ・トドマツは弱含みが見込まれる。紙原料は、不足気味で原材料価格が上昇しており、原料の取り合いが全道

的に見られる。木質バイオマス原料は、順調に集荷されており、価格も高止まりの傾向から、下がり気味で推移している。(全道)

- 受注量の減少は底を打った感がみられる。急激に元に戻る訳ではないが、徐々に物の動きに回復の気配を感じる。(十勝)

窯業・土石製品

- 9月の生コン出荷量はおよそ321千m³。(前年同月比100.6%)
- 地域別には、前年同月を上回った分会は27分会中、13分会で前年(増加は6分会)を上回った。前年同月と比較して増加したのは道南、北根室、小樽など。一方、減少したのは札幌、上川北部、日高などであった。
- コンクリート舗装の普及拡大は、業界の発展につながる。(全道)
- 販売価格は前年に比べて上昇したものの、運賃や人件費等のコスト上昇から収益は低調の状況が続いている。
- 空知地域では、公共事業の減少や再生骨材の普及により、砂利のニーズは減少傾向にある。(全道)

その他

- 台風被害もなく干ばつ高温傾向で、平年より小ぶりであるが収穫量は確保できた。イカ・ホタテや鮭等の水産物は厳しい。観光はそれなりだが、物の消費から事柄の消費へシフトしている。製品価格の値上げについては、ようやく足並みがそろってきている。物量の前年割れが続き、輸送費や労務費が上がる中、遅すぎるが業界が生き残るためには価格改定しかないと判断した。待遇を変えなければ人手不足は解消できない。(全道)
- 造船労働者の人口減少問題は深刻化しており、労働力不足への対応が引き続き、重要な経営課題となっている。造船所各社、新造船受注増で増産体制での建造が進められており、積極的に中途採用を行い人材育成・確保に取り組んでいる。(室蘭)
- 全体的に動きは良くない。(札幌)

非製造業

卸売業

- 総合スーパーの道内撤退が進むなど、小売店舗の縮小傾向が続いている関係で、靴や文房具・書籍等の販売減少が大きくなっている。一方で百貨店への販売は順調であった。
- メーカー兼卸売の形態では内需の減少から販路を海外に求める傾向が強くなっている。
- 販売価格はコスト増加分の転嫁が頭打ちの状況となっているが、材

料価格や物流コストは上昇を続けており、一段の値上げを検討している企業が多い。

- ・減収、収益低下という状況にあるが、前年に比べ業界の景況は好転との回答が多い。
- ・貸会議室、展示室の需要は引き続き旺盛でフル稼働の状況となっている。(札幌)
- 残暑がやっと収まり、秋らしい天気が続いている。秋の収穫祭イベントがほぼ毎週末、十勝管内の各市町村で開催されている。
 - ・米不足の影響で、スーパーなどでは米が一時的に全く無い状況であったが、新米が出荷されてからは見かけるようになった。しかし、昨年より高い価格で推移している。(帯広)
- 令和6年9月期の当組合買付高は仲卸、荷受1,477,105千円(税抜)で、先月の8月期実績額1,636,693千円(税抜)より、159,588千円ほど減少した。8月はとりわけ、御中元商品の需要期であり、その分の物流が動いた形になったようだ。(道央)
- 銅単価は高止まり傾向にあり、設備資材全般に渡り高騰が続いている。(全道)

小売業

- 前年比較 物販95.1% 金融93.3%
 - ・9月は天候も良く、道北最大級の食のイベント「食べマルシェ」は昨年より18万5千人増の81万4千人が来場し、中心市街地は観光客をはじめ多くの人で賑わった。業種別では旅行関連が225%、高速道路が115%と好調な一方、家電が71%、家具が85%と売上額の大きい業種が減少し、全体では前年割れとなった。(旭川)
- 気候は暑くも寒くもないのに、観光客は先月よりかなり減少した。地元客が求める「サンマ」は昨年より価格が下がり、魚体も少し小さくなったが、思ったほど売上が伸びていない。地元客のサイフは相変わらずカタイ。(小樽)
- 販売数量、金額ともに落ちている。厳しい経営状況は変わらない。(稚内)
- 9月は連休も多く、市内のホテルは観光客で満室になるなど人の入りは多かったものの、当組合においては観光客相手の業種が無く連休が多かった分いつもより悪かった。一方、ガソリン等の燃料販売や酒類の卸売り、ホテルリネンも請け負うクリーニング業においては昨年より良かった。
 - ・旅行業は、冬休み期間の道内温泉施設や関東のテーマパークの問合せが増え、昨年より動き出しは早まっている。携帯電話販売業については、操作説明が有料化されたことから来店客対応が煩雑になり、スムーズな商材提案に支障をきたしている。保険業は既契約者への集中した架電営業により、新たな契約を獲得できている。(釧路)
- 自転車シーズンもそろそろ終盤。来年度以降に期待したい。(全道)
- 今月は、1週目の週末に子育て応援イベントや36回目を迎えた秋の西部地区バル街、2週目の週末には「はこだてグルメサーカス2024」と「黒船サーカス2024」の同時開催とエリア内でのイベントが続いた。3週目・4週目の週末はそれぞれ連休で、アニメ映画「名探偵コナン」のイベント最終月ということもあって、週末を中心に賑わいが見られた。特に連休中の15日に開催された「アイアンマンジャパンみなみ北海道2024」では、当日の盛り上がりもさることながら、参加者や大会関係者など大変多くの方々が大会前後に買い物や食事など、売り上げに大きく貢献いただいた。(函館)
- 夏休みが終わり、観光客も落ち着き、売上は前年並み。商品価格は冷凍品中心に上がっている。秋のサンマの入荷は多くなったが、価格は下がっていない。秋鮭の入荷は少なく、生筋子の価格は昨年の1.5倍の1,000円/kg以上となっている。10月に価格が下がるのを期待。(道央)
- 大口取引先からの注文が月跨ぎとなったため、売上前年比78%となった。(札幌)
- 9月は、3連休が2週続いたので、観光客で賑わいをみせた。ツアーや修学旅行の団体も、昨年より増えている。大型客船の寄港が4回あり、外国人の来店も増えて賑わいがあつた。月2回の和商の日には、鶴居村のレストランのパンやケーキを販売し、昼過ぎには完売した。来月はパン屋もオープンするので、期待したい。(釧路)
- 24年1月～9月は前年同期と比べて小型トラクタの台数が増え、中・大型は微減だった(台数ベース)。スマート農業関連では補助金を活用して地道な活動をしている。(全道)

商店街

- 9月共通駐車券の利用は、前年同月比121.7%、買物共通バス券は、前年同月比114.3%。共通駐車券の利用増は、とかちマルシェ(8/30・31・9/1)開催によるもの。(帯広)

サービス業

- 当年度4月からの累計受注契約総額は、前年度に比べて1割程度増えているが、逆に受注業務件数は多少減少している。このため、業務単

価の価格を一定条件で受注している下請け事業者などは受注額が減少したうえ、人件費、資材・消耗品等の価格上昇による収益への影響も出てきているが、業界内での適切な価格交渉の活動も見受けられるようになってきている。また、収益の改善を目指して市場単価調査への積極的な参加に取り組む組合員も多くなってきた。(全道)

- 依然として大きな状況の変化はない。営業努力で持ちこたえる。(全道)
- 就活では学生優位の売り手市場が続く中で、早くも2026年春の大卒予定者を対象にした夏から秋にかけての短期(2～3日間)インターンシップを実施する道内中小IT企業が増えている。応募を待っているだけでは採用計画数を満たすことができないため、入社後の実務体験を用意してインターンシップへの参加を直接勧誘する採用直結型のリクルートでスカウト採用しようという思惑だ。一方で工業高校や高専、専門学校卒業生を取り込もうとする積極的な動きもあるが、それでも新卒入社者数を確保するのは厳しく、相変わらずの人材不足、人手不足の解消ができない状況が続いている。その上、道内中小IT企業の多くは新規や中途採用と離職者防止のため、今春大幅な賃上げを実施した。業績や利益に裏打ちされた賃上げというより、防衛的賃上げの傾向が強く、次年度以降も継続した賃上げが必要なことから、ここきてシステム開発案件単価の再値上げを積極的に進めないと、業績悪化の懸念を抱く経営者が増加している。(全道)
- 今期初めて前年実績を上回る入込。人数ベースでは、インバウンドの増加が大きい。(十勝)
- 人材不足がさらに悪化してきている。今までもそうだが若年層の採用難が顕著。(旭川)

建設業

- 官庁工事については、第一四半期(4～6月)の大量発注時期は、懸念していた入札不調は余り起こらなかったが、第二四半期(7～9月)に入り、人材不足(技術者と技能者の両方とも)による入札不調が、特に設備工事で目立ち始めた。札幌市について、学校100校のエアコン設置工事は、第一四半期の発注が無事に不調も少なく終わった後、7月からの従来の改修工事で、特に設備工事で不調が増加してきた。道立高校のエアコン工事で8・9月の工事に不調が多発し、10月に再公告になっている。
 - ・民間工事では、建築費高騰の影響により、夏場には「新規住宅着工数」がかなり減っていたが、ここに来てやや回復傾向にある。分譲マンションは、中心街の高額なタワマンは多く建っており、円安の影響で外国人の不動産への投資が旺盛であることが覗える。半導体製造工場の工事が佳境に入っているが、周辺地区において、製造業の工場、倉庫等物流施設、住宅、ホテル、店舗関係の工事の発注は旺盛である。
 - ・資材費、人件費高騰に伴う「価格転嫁」について、やはり昨今のサブコン業者の減少もあって、価格に関する要望はある程度考慮してくれつつあり、僅かではあるが収益状況は改善しつつある気配である。
 - ・「働き方改革」について、官庁工事は「週休2日型」が今年から本格導入されているのと、民間現場について、ゼネコンによっては「隔週で土曜日閉所」の改善は徐々に見られつつある。ただ、秋から冬にかけての繁忙期に入ると、やはり工期を守るためにも長時間労働を強いられる状況になるのでは?と心配している。(全道)
- 原材料費の増加は落ち着きの兆しも伺われるが、今後の推移には注視する必要がある。また、人件費の増加は続いており、収益への影響が生じているほか、雇用人員不足による事業への影響も出ており、新たな事業獲得が難しい状況にある。4月からの働き方改革の対応に苦慮している。
 - ・技能実習制度から育成就労制度へ変わる情報について知りたい。(札幌)

運輸業

- 全般的に動きに変化があるようで、フリートSSも含め、燃料の売り上げ数量は減少している。(小樽)
- 農産物の繁忙期のため荷動きは良いが、需要に応えられるだけのトラックが手配できず、売り上げが思ったほど伸びない。物価上昇率分だけ荷量が減少している。運賃は値上がりしているが、外注運賃や車両価格、修理代の値上がりの方が大きく、収支は厳しい。(全道)
- 農産物は順調な荷動きになっている。鉄道の車軸問題の関係でトレーラーの需要が増えている。一般カーゴについても半導体製造工場関連の貨物が増加している。域内輸送も前年と比較すると増加している。乗務員の不足が慢性化している。(石狩)
- 売上高は、前年同月比(8月) 2.88%減少
 - ・乗務員数は、前年同月比(9月) 3.0%減少
 - ・8月分チケット取扱高は、前年同月比 1.15%増加(旭川)